

組合機關紙向上會々報シヨフワートフレンド津守だより大阪印刷革新同志會々報及び大阪鐵工組合の純勞働新聞等にして、關西に於ける友愛會は關西勞働同盟會なる別名を有し、關西に於ける勞働團體その數數十、今尙は盛んに發達を遂げつゝあるものもあるも一方尙早や前記の勞働組合にして既に已に解散消滅の悲運に遭遇したるものもある、而し普通選舉期成關西勞働聯盟は今尙ほ組織され、更に又關西勞働團體懇談會が組織せられて居るのである、然るに九年十月關西勞働組合會組織の議ありたるも大阪鐵工組合は加らなかつたのである。何とならば鐵工組合は形よりも事實を尊ぶからである、聲よりも實行を尙ふからである、見よ將來鐵工組合は大聯合否大合同を策するの日ある事を。

第九章 各支部の概況

一波は一波を動かし遂に萬波滔々たる如く、大阪の西隅煤煙と塵埃に塗れたる一勞働者の絶叫は忽ち安治川支部の成立となり、續いて南恩加島支部市岡支部福島支部の創設となつた、八月に入つて城東支部、九月には櫻島支部十月には今宮支部玉造支部本庄支部 十一月に十三支部 越へて九年四月には南支部が創立した、斯くて大阪全市及び府下郡部に亘つて各支部が續設せられた。

而して八年度に比し、九年度に支部増設の少ないのは、八年度に一工場を一支部と見做せる標準を、九年度には各工場を包容せる地方別に改めたからである、故に支部の改稱は行れた、例へば一月に本庄支部が天満支部と改稱したるが如き、又十月には十三支部が北大阪支部と改稱し、十一月には櫻島支部が西大阪支部と改めたるが如きはそれである。斯くして専ら内容充實を努めると共に各支部は約二十ヶ月の間に於て三十有餘回の公開演說會又は講演會を催し組合員の熱烈にして眞摯なる演說と俱に金子徳申神戸正雄長谷川柳太郎日野國明志賀志那人戸田貞一氏等の演說があつた。斯くして鐵工組合には加盟せる工場は

大阪鐵工所 安田鐵工所 西村鐵工所 平尾鐵工所 久保田鐵工所
 染料會社 製鐵會社 汽車會社 住友伸銅所 廣瀬鐵工所 電機會社